

明治・大正・昭和前期に刊行された貴重な辞典類を選定・復刻!!
 文学研究や歴史研究等のレファレンスに最有用な資料、第5弾。

文学・言語研究資料シリーズ3

近現代日本語辞典選集

【モダン語辞典・事典・用語編】

第5回配本 全4巻

解題：澤 正宏（福島大学名誉教授）

●体裁：B5判・上製・約2800頁 ISBN978-4-910672-72-4 C3381

●定価：本体130,000円



クロスカルチャー出版

文学・言語研究資料シリーズ3 近現代日本語辞典選集

【モダン語辞典・事典・用語編】第4回配本 全3巻

■解題 澤 正宏（福島大学名誉教授） ■体裁 B5判・上製・総約1600頁 ISBN978-4-910672-52-6 C3381

- 巻構成 ●第12巻 『AN AINU—ENGLISH—JAPANESE DICTIONARY』John Batchelor著(教文館、大正15年8月5日発行)第3版。
 [補遺] 『APPENDIX TO THE THIRD EDITION OF DR.BATCHELOR'S AINU DICTIONARY.1932』
 ●第13巻 『博物辞典』藤本治義、岡田彌一郎、三輪知雄編(三省堂、昭和13年2月15日発行)初版。
 ●第14巻 『明治屋食品辞典』上巻 山本千代喜編(明治屋東京支店、昭和10年6月1日発行)再版。
 『明治屋食品辞典』中巻 山本千代喜編(明治屋東京支店、昭和10年3月16日発行)初版。
 『明治屋食品辞典』下巻 山本千代喜編(明治屋東京支店、昭和10年12月20日発行)初版。

文学・言語研究資料シリーズ3 近現代日本語辞典選集

【モダン語辞典・事典・用語編】第3回配本 全3巻

■解題 澤 正宏（福島大学名誉教授） ■体裁 B5判・上製・総約1800頁 ISBN978-4-910672-06-9

- 巻構成 ●第9巻 『新詩辞典』新詩會編纂(東京・参文舎、大阪・積文社發行所、明治39年5月5日発行)初版。
 『新文藝辞典』菊池寛著(誠文堂發行所、昭和7年9月20日発行)初版。
 『大東亞時局語』朝日新聞社編(編集兼發行人・山本地榮、株式會社朝日新聞社發行所、昭和19年2月5日発行)初版。
 ●第10巻、第11巻 『故事熟語大辞典』(瀟洲)池田四郎次郎編著(東京寶文館發行所、大正15年9月20日発行)。60版(初版は大正2年10月5日発行)。

文学・言語研究資料シリーズ3 近現代日本語辞典選集

【モダン語辞典・事典・用語編】第2回配本 全4巻

■解題 澤 正宏（福島大学名誉教授） ■体裁 B5判・上製・総約2000頁 ■揃定価 本体120,000円+税 ISBN978-4-908823-86-2 C3381

- 巻構成 ●第5巻 『袖珍新聞語辞典』竹内猷郎編(東京堂、大正8年6月1日発行)初版。
 『通人語辞典』勝屋英造編著(二松堂書店、大正11年11月15日発行)初版。
 ●第6巻 『現代新語辞典』現代編輯局編(大日本雄辯會講談社、昭和6年1月1日発行)初版。
 『特高新辞典』横溝光輝編著(松華堂書店、昭和4年5月28日発行)訂正四版。
 『隠語辞典 新聞語辞典 附録』栗田書店編輯部編(栗田書店、昭和13年4月25日発行)十四版。
 『日本性的風俗辞典 全』佐藤紅霞編著(文藝資料研究會、昭和4年6月20日発行)非賣品、初版。
 ●第7巻 『猥褻廢語辞典』宮武外骨編著(自費出版、大正14年2月10日発行)。訂正再版。
 『日本性語大辞典』宮本 良(桃源堂主人)編著(文藝資料研究會編輯部、昭和3年8月25日発行)初版。
 『かくし言葉の字引』宮本光玄編著(誠文堂、昭和4年12月20日)改訂版。
 『チョーフレ』南霞濃編著(文献研究會、昭和5年6月30日発行)初版。
 ●第8巻 『世界性慾學辞典』佐藤紅霞編著(弘文社、昭和8年5月15日発行)普及版、初版。
 『隠語構成様式並に其語集』樋口 榮編著(警察協會大阪支部、昭和10年6月10日発行)非賣品、初版。
 『性行辞典』友田宜剛編著(武揚堂、昭和17年6月15日発行)九版。

文学・言語研究資料シリーズ3 近現代日本語辞典選集

【モダン語辞典・事典・用語編】第1回配本 全4巻

■解題 澤 正宏（福島大学名誉教授） ■体裁 B5判・上製・総約2500頁 ■揃定価 本体120,000円+税 ISBN978-4-908823-74-9 C3381

- 巻構成 ●第1巻 『近代詩用語辞典』河合醉茗編著(紅玉堂書店、大正13年10月5日発行)初版。
 『プロレタリア文藝辞典』山田清三郎、川口浩編著(白揚社、昭和5年8月25日発行)初版。
 『文學新語小辞典』生田長江編著(新潮社、大正6年5月15日発行)第18版。
 『モダン語辞典』鷗沼直編著(誠文堂、昭和6年2月28日発行)第45版。
 『現代術語辞典』『毎日年鑑』附録、大阪毎日新聞社、東京日日新聞社編纂(大阪毎日新聞社、東京日日新聞社、昭和6年10月1日発行)初版。
 ●第2巻 『モダン流行語辞典』趙町幸二編著、喜多社一郎(早大教授)監修(実業之日本社、昭和8年1月8日発行)2版。
 『増訂 哲学辞典 全』朝永三十郎(文学博士)編著(東京宝文館、大正8年10月10日発行)。増訂8版。
 『最新 市場用語解説 別輯 英米市場用語詳解』中外商業新報社市場部編(森山書店、昭和7年12月7日発行)再版。
 ●第3巻 『外来語辞典』あらかわ そらべゑ編著(富山房、昭和16年6月10日発行)初版。
 ●第4巻 『英語から生れた 現代語辞典』英文大阪毎日学習号編輯局編(大阪出版社、昭和5年9月8日発行)増補11版。

好評既刊 文学・言語研究資料シリーズ 1 2

編集・解説:李 長波 近代日本語教科書選集 全3回配本 全14巻 揃定価 本体370,000円+税
 編集・解説:李 長波 近代日本語教科書選集 補遺編 全4巻 揃定価 本体125,000円+税
 編集・解説:澤 正宏 西脇順三郎研究資料集 全2回配本 全6巻 揃定価 本体178,000円+税
 〈おすすめ先〉近現代文学研究者、日本語史研究者、近現代史研究者、大学図書館、公共図書館

クロスカルチャー出版

学術出版

〒101-0064 東京都千代田区神田猿樂町 2-7-6

TEL: 03-5577-6707 FAX: 03-5577-6708

<http://crosscul.com>

取扱書店

近代医学辞典の金字塔。圧倒的な医学語彙数とその水準の高さ

刊行にあたって

福島大学名誉教授 澤 正宏

「言葉」との出会いは、外国語を含めて、私たちが知らなかった過去、現在、未知なこの世界に在った、また在る、あらゆる分野への出会いを可能にしてくれます。私たちの心がまえ次第で、「言葉」を媒介にした、たくさんの可能性をもった発見が待たれているといつてもよいと考えます。

その意味で、前回の第四回配本(全三巻)では、そのなかの一冊として『博物辞典』(一九三八年発行)を復刻し、「諸々の事物」という意味をもつ「博物」(natural history)の紹介により、「古きを尋ね」るかたちで網羅的に事物のもつ事実を探ってみました。科学が発展し続ける現代は、超ミクロの世界から一十億個もある銀河宇宙まで、事物の探究は止まりませんが、言葉が記憶している書物の世界からの可能性も追究してみたいものです。

さて、今回の第五回配本(全四巻)では、「言葉」を明治末期(一九〇〇年代後半)からアジア・太平洋戦争(一九四〇年代中頃)までの「醫學」ないし医学・医療関係の語彙に絞り、人間の病気や、病んでしまった人間の身体がもつ事実の探究、その治療、治療の方法などの歴史から生まれた「言葉」に注目してみました。明治以降、医学の主流は勿論、西欧医学の移入、摂取にあつたわけですが、とくに、古代ギリシア語、ラテン語などを源流に踏まえているヨーロッパ語の病名を和訳することの揺れ、苦労、変遷、歴史などは、もちろん病気の原因の分析、説明、治療が第一なのですが、「言葉」の問題としても十分に読み応えのある辞典、辞書、字典だと考えます。今回刊行の資料も、現代の言語文化研究に欠かせないものと考えます。

内容見本

▲第15巻 醫學大辭書(上)



▲第17巻 醫學大辭書補遺



特色

- 1 第一五巻の「醫學大辭書」(上巻)では、明治三十九年までに研究され、医療現場で使われていた医学用語などが、語彙数でいえば全五千八百一十二語収載されている。そのために八四名の医療機関、医科大学に勤務の医学博士、医学士を執筆者としており、例えば、Bewusstseinschwäche(ベウストザインシュヴェレ、独語)の訳語がなく、森鷗外が「意識の闕」とあてたことはよく知られているが、この巻の「意識障壁」の項には、「意識」の医学的な観点からの定義が示されていて、当時の「哲学」(とくに現象学などの)解釈との違いなどが分かる。同様に「言語」「言語障壁」なども立項されていて、当時の「言語学」との、言語の捉え方などの比較などが出来る。
- 2 第一六巻の「醫學大辭書」(下巻)も内容は(書誌としては、上巻とほぼ同様であるが、収載の立項語彙数は全四千四百二十八語となっている。巻末の「醫學大辭書分科目次」も貴重で、当時は「外科学」はあっても「内科学」や「泌尿器科学」などはなく、「歴史」(外国人医師の名前が多い)とか「軍陣醫學」(三等患者)「野戦病院」の語が載る。「分科」があつて、この時代の医学の歴史を語っている。同じく巻末の各種西語の日本語訳も、医学分野の言葉の変遷を知る上で貴重である。
- 3 第一七巻の「醫學大辭書」(補遺)では、同書の上下巻で合わせて語彙数一万二千四百〇語の収載に加えて、さらに二千四百〇語の追加の収載をしている。この補遺版では、前記と同様の専門医師九五名を執筆者に行っている。
- 4 第一八巻の「獨羅和譯醫學新字典」では、当時使用されていたドイツ語、ラテン語の医学用語二万六千六百四十四語という沢山の語彙の和訳が、日本語の歴史の上でも重要である。「醫學用語集 第一次選定」では、戦時下での外来語としての医学用語の選定、確定、掲載という、医学会の委員会における言葉の決定が目されることである。

▲第16巻 醫學大辭書(下)

▲第18巻 醫學用語集 第一次選定

▲第18巻 獨羅和譯醫學新字典



新刊案内



『危機に立つ教育委員会』、『危機に立つ国立大学』に続く第3弾！

危機に立つ学校教育

——小中学校にも卒業論文を——

●北野秋男(元日本大学文理学部教授・元日本大学総合社会情報研究科教授)著 【CPCリブレ No.23】
●体裁:A5判・並製 170頁 ●定価:本体2,000円+税 ISBN978-4-910672-77-9 C0037

2026年4月6日発売

子育て中のお父さん、お母さん、教員などの学校関係者、さらには日本の将来に危機を感じる人たちに向けて、日本の子どもや若者の現状を分析し、問題を検証。児童生徒自身による課題や探究を促す卒業論文作成を提案します。

【目次】

学校関係者必読!!

はしがき

- 第1章 危機に立つ「子ども」と「若者」 1 「不登校」と「いじめ」 2 スマホ依存の実態 3 「スマホ」と「学力低下」 4 子どもの貧困 5 「闇バイト」と「犯罪」 6 「若者」と「政治」 おわりに
- 第2章 危機に立つ学力 1 戦後の学力低下の実態と対策 2 2003年「PISA ショック」と学力低下 3 「全国学力・学習状況調査」による学力向上対策 4 国家的「評価制度」(モニタリング・システム)の確立 5 学校外の学習時間の減少 6 子どもの学力低下の実態 7 タブレット端末による学力の喪失 おわりに
- 第3章 二極化する学力 1 「貧困」と「学力」 2 子どもの貧困対策 3 貧困対策としての教育支援 4 貧困家庭の学力低下 5 「二極化する学力」の特徴と問題点 6 「学力の二極化」対策 おわりに
- 第4章 「学力テスト」の縮小、もしくは削減 1 「学力テスト」の弊害 2 戦後の学力テスト反対論者の主張 3 テストは「競争」のためにあるのか? 4 現代学力テスト批判 5 「テスト」をやめた学校 おわりに
- 第5章 小中学校にも「卒業論文」を 1 卒業論文作成の目的と意味 2 小学校で卒業論文を課す学校 3 中学校で卒業論文を課す学校 4 トピック・テーマの選び方 5 1年間以上かける作成期間 6 「報告会」はどうするか おわりに あとがき



本書は、「学びの創造」「学び続ける学力」を持つための具体的な提言として、小中学校における卒業論文作成を提案しました。その理由は、教育の根本を子どもの「完成可能性」への信頼、「自律」の形成に置き、一人ひとりの「学び」の保障を行うといった教育の根本原理の重要性を主張したかったからです。今の社会においては、「競争」と「結果」を求める考え方が支配的であり、学校教育のあり方にも強い影響を及ぼしていますが、私たちは子どもを競争社会に投げ込み、成功者・勝利者を称賛し、敗者・落伍者を絶望の淵に追い込んでいくのではないのでしょうか。人の幸せの度合いを決めるのは、お金や富ではないし、結果でもありません。一人ひとりが目標を持って、人の役立つこと、人に認められることが幸せとなるのではないのでしょうか。〈中略〉小学校における論文作成は、自らが問い続け、行動する糧となる基盤形成となるのではないのでしょうか。自分の「生き方や「考え方」の方向性や進むべき道への確固たる意志を持つことが重要です。——本書「あとがき」

著者略歴：北野秋男 1955年富山県生まれ。元日本大学文理学部教授・元日本大学総合社会情報研究科教授 / 日米の学力テスト政策の比較研究。『地方学力テストの歴史—47都道府県の戦後史—』(2022、風間書房)、『戦後学力テスト研究資料集』(全6巻、2024・2025、クロスカルチャー出版)ほか。

クロスカルチャー出版 101-0064 東京都千代田区神田猿樂町2-7-6 電話 03-5577-6707 ファクス 03-5577-6708

書籍・書店コード・地域・書店名	部数	受注年月日	取扱い品 流通センター 地出版	概要	品切・絶版・未刊 出来予定 月 日	備考	
				書名	危機に立つ学校教育 ——小中学校にも卒業論文を——		2,000円 本体
				発行人	クロスカルチャー出版		返条付
				注文者名		注文引受票	

新聞広告は4月12日(日)朝日新聞一面下に掲載します。

童の特徴を「特異な才能ある子供」「学力の低い傾向が見られる子供」「不登校傾向」などに分類し、それらの合計が22.7人にも達すると述べています。つまりは、35人学級の約65%が何らかの問題を抱えている子どもだと言うことです。同じく中学校も26.9人に達し、その比率は67.25%になっています。

こうした状況から、文部科学省は学校教育における「児童生徒の多様性を包摂する必要性」を認識し、一人ひとりの学習への意欲を高め、その可能性を开花させる教育の実現を重要な課題として掲げています。もはやクラスの半分以上の児童生徒が昔のような教師主導の画一的な教育では対応できない状況にあり、その人数や割合も増える一方です。

文部科学省が公表した令和5(2023)年度における小中学校の不登校児の数は、346,482人(前年度299,048人)です。この増加傾向は11年連続です。同じく、2024(令和6)年度の小中学校における「いじめ」の認知件数も732,568件(前年度681,948件)となり、こちらも3年連続で増加しています。こうした数字を見るにつけ、「日本の学校教育は大丈夫だろうか」と思う人は相当数に達するのではないのでしょうか。子どもを持つ親や学校の先生たちの危機感は、「半端ない」に違いないと思われま

さて、本書は子どもたちが直面する「学び」の危機の実態を考えつつ、日本の学校教育のあり方を再検討します。特に、2000年以降に顕著になった「学力低下」と「学力の二極化」の問題を取り上げ、こうした危機を乗り越える新たな「学び」のあり方を考察します。では、こうした危機的状況はどのように対処したらいいのでしょうか。本書の提言は二つあります。

一つは、学校教育での「**テストを削減するか、廃止する**」ことです。「テストに依存する学校教育」、「テスト漬けの学校教育」のあり方を改め、新たな学力観に立った教育のあり方を追求すべきと考えます。新たな学力とは、テストのための学力ではなく、次に提案する卒業論文作成のための学力です。

二つ目の提案は、テストの削減、もしくは廃止に代わって、「**小中学校にも卒業論文の導入**」を提案します。もちろん、「卒業論文」といっても小学生に「論文」が書けるはずありません。本書が提案する「卒業論文」とは、「卒業課題」「卒業レポート」「卒業制作」といった類のものであり、自分の意見や主張をまとめた「エッセイ」「作文」「宣言文」のようなものでもいいと思います。自分で課題を考え、色々と調べ、自分の言葉でまとめることを重視します。そして、小学校で開始した卒業論文作成を中学校、高校、大学へとつなげ、発展・深化させることを目指したいと思います。

どうして、このような提案をするかと言うと、それは「危機に立つ学校教育」の状況を救う一つの方策となりうるからであり、未来に向けた新たな学力観の確立となるからです。日本の学校教育に対する世界的評価は「高い」と言えます。日本の児童生徒の学力は、均質で高いレベルの基礎学力を持っています。学校の教員も全員が教員免許を持ち、生徒指導に対する意欲と熱意に溢れています。ですが、日本の学校の教育スタイルは教師中心、教科書中心、テスト学力中心です。学校の勉強は楽しくないし、つまらない。日本の学校教育の特徴は、ドリル学習やワークブックなどに象徴されるように、基礎知識の反復や四択問題の中から「正答」を求める訓練を重視するものです。